

「日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)」は、河川・流域再生に関わる事例・経験・活動・人材等を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい水辺再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的として、2006年11月に(財)リバーフロント整備センターが設立した団体です。また、「アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)」の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、同時に、アジアの素晴らしい取組みを日本国内に還元する役割も担います。

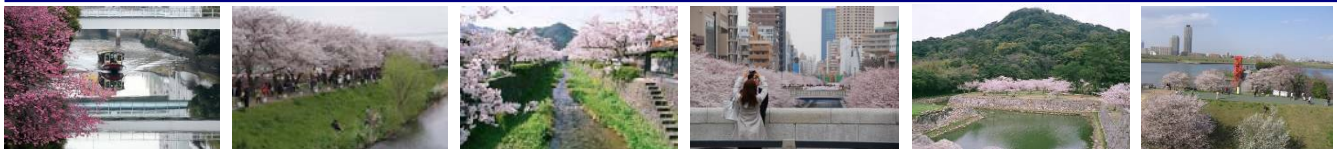
目次	Pages
➤ JRRN 活動報告	1
➤ 会員寄稿記事	3
➤ 研究・事例紹介	4
➤ 会議・イベント案内	5
➤ 冊子・ビデオ等の紹介	5
➤ 会員募集中	6

巻頭書記

毎月発行しているJRRNニューズレターも第47号となり、本年8月で節目の50号を迎えます。河川・流域再生に関わる情報媒体の一つとして、引き続き有益な情報発信を目指してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。5月にはJRRN編集「よみがえる

川～日本と世界の河川再生事例集」を、また6月には『桜のある水辺風景 2011』写真集」を皆様にお届けできるよう、JRRN事務局では編集作業に取り組んでいます。今後とも、JRRN活動に対する会員皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

JRRN 活動報告(1)



『桜のある水辺風景 2011』写真募集中 5月31日応募〆切!

JRRNでは、「桜のある水辺風景」の写真を募集しています。

昨年、会員の皆様からいただいた春の水辺風景の写真を、「桜のある水辺風景2010」と題し、ホームページで公開させていただきました。

◆『桜のある水辺風景2010』ダウンロード

<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/publication/2192.html>

今年も短い桜の時期を終えようとしていますが、その場所、その瞬間の素晴らしい風景が届けられています。皆様のお手元の写真に「桜のある水辺風景」はありませんでしょうか？ まだ桜が咲いている地域の皆様、是非春の水辺に足を運んで、自分だけの風景を切り取ってみたいかがでしょうか？

さらに多くの方々の水辺への関心が高まるきっかけになることを期待し、全国各地の会員の方々からの「桜のある水辺風景」をお待ちしています。

- テーマ：「桜のある水辺風景 2011」
 - ・2011年に撮影された写真であること
- 応募資格：JRRN会員または会員登録予定の方
- 作品規定：
 - ・応募はお一人何点でも可
 - ・応募作品は自ら撮影したもの
- 応募方法：
 - 「**応募シート**」に必要事項を記載し、送付してください。
- 応募作品の取扱いについて：
 - ・応募期間終了後に、JRRNニューズレターや「応募写真集」上にてご紹介させていただきます。
- 詳しい情報や応募シートはこちらから

<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/information/2587.html>

(JRRN事務局 後藤勝洋)

JRRN 活動報告(2)

ECRR(ヨーロッパ河川再生センター)との交流報告～JRRN/ARRN 運営アンケート回答

JRRNが現在事務局を担う『アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)』では、ARRN設計時のモデルとしたECRRと継続的な技術交流を行っております。昨年9月には、韓国で開催されたARRN国際フォーラム及びラウンドテーブル会議にECRR会長・Bart Fokkens氏を招き、ヨーロッパでの河川再生ネットワーク運営の様々な教訓をご紹介頂き、その後も河川再生やネットワーク運営に関わる双方の情報共有を図っております。

このECRR事務局にて、2010年の1年間、事務局員としてインターン研修を行ったオランダ国際農業大学の学生さん(現在、ECRR事務局の指導を受けながら「ECRRの更なる発展に向けた長期戦略について」卒業論文執筆中)より、ARRN及びJRRNの運営面に関するインタビュー(アンケート形式)を受けました。先方からの質問を以下にご紹介させていただきますとともに、質問に対するARRN/JRRN事務局回答は、JRRNホームページをご覧ください。(日本語訳あり)

ヨーロッパ河川再生センター(ECRR)とは? European Centre for River Restoration



<http://www.ecrr.org/>

1999年にヨーロッパの河川再生を推進するために設立されたNGO団体。各国内ネットワークの統合ネットワーク的な団体で、現在9か国(イタリア・イギリス・スペイン・デンマーク・ルーマニア・フィンランド・ロシア・オランダ・ベルギー)の国内ネットワークが参加している。

<http://www.ecrr.org/partners-ecrr.html>

ECRR事務局は3年交代で運営され、2010年1月からオランダがECRR事務局を担っている。

(JRRN事務局 和田彰)

■インタビュー問答(日本語版)はこちら→ <http://www.a-rr.net/jp/info/letter/activity/2697.html>

- 質問 1.** ARRN は日中韓の三か国主導で設立されましたが、互いにどのような種類の協力関係を共有するために設立されましたか？
- 質問 2.** ARRN ホームページにおいて、「ARRN の一つの活動目的は、河川・流域再生に関わる知見や経験を交換し共有できるように、関係する団体・個人にこうした機会と場を与えることである」と述べています。ARRN 内では「River Restoration」をどのように解釈していますか？ ECRR における定義と比較した上で教えてください。
- 質問 3.** どのようにして、中韓ネットワークと健全な関係を維持していますか？ 具体的コミュニケーション方法を教えてください。
- 質問 4.** 中国では一部に環境に配慮していない事業が散見されますが、一国の利害を超えたネットワークとして、こうした問題に対しどのように対処していますか？ (もしそうした事例があれば)
- 質問 5.** ARRN の活動に対し、政府はどのような立場をお持ちですか？ 肯定的か、それとも否定的か？ 詳しく説明頂けますか？
- 質問 6.** もし、政治的もしくは行政的な苦労等に直面しているならば、あなた方はどのようにしてそれらに対処していますか？
- 質問 7.** もし政府の支援等を得ているならば、どのような種類の支援を受け入れていますか？
- 質問 8.** 先の質問 6、7に関連し、よりよい状況とはどんな状態であるとあなたはイメージしていますか？ 現在は実現していないが、こうなったらよりよいだろうという一例を示して頂ければ幸いです。
- 質問 9.** 日本、韓国、中国それぞれの社会では、河川再生という問題はどのように認識されていますか？
- 質問 10.** 社会に河川再生というメッセージを送るために何をしていますか？ 社会啓発のために具体事業を教えてください。
- 質問 11.** どのような形もしくは方法で、「河川再生」という言葉が社会に受け入れられるのが一番だと思いますか？
- 質問 12.** ECRR と ARRN の比較に関する質問です。地域的、政治的、社会的な差異を考慮した上で、ARRN と ECRR はその活動や理念 (<http://ecrr.org/approach-ecrr.html> 参照) に顕著な違いがあると思いますか？
- 質問 13.** 国際レベルで見た場合、どのような因子が、各国の河川再生の取組に差を生じさせていると思いますか？ 政治的問題か、環境か、社会か、技術か、経済か、もしくは文化か？
- 質問 14.** 国際レベルにおいて、どのようにして ECRR と ARRN/JRRN は双方のよさを引き立たせ互いに補完しあうことができるでしょうか？ ECRR も ARRN も、どのようにして河川再生の実現に貢献できるでしょうか？

水辺からのメッセージ No.24

国土文化研究所 主任研究員 岡村幸二 (JRRN 会員)

下屋敷跡に季節を呼ぶ石神井川：

加賀藩下屋敷跡周辺の石神井川は、板橋十景にも選ばれた板橋区を代表する景観資源



撮影：2011年4月（東京都板橋区石神井川）

◆石神井川沿いの桜並木

板橋区内の石神井川は、深い掘り込み護岸でコンクリート三面張り護岸となっていますが、千本を超える兩岸の桜並木は旧川の緑地も取り込まれて、水と緑の景観軸を形成しています。桜の花びらに水際がおおわれて、この日だけはコンクリート護岸の表情が変わります。

※国土文化研究所は、株式会社建設技術研究所のシンクタンク組織です。

■ JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。(JRRN 事務局)

研究・事例紹介

「海外河川・流域再生に関わる事例及び技術指針等の情報源一覧表」(2011年4月版)のご紹介

海外の河川・流域再生に関わる事例及び技術指針等の情報源の一覧表(2011年4月4日版)を作成しましたのでご案内させていただきます。

URL: <http://www.a-rr.net/jp/observe/jrnrndatabase/2671.html>

欧米やアジアを含む海外でも数多くの河川・流域再生の取組が行われ、特に欧米や豪州では日本以上に様々な情報(再生目的や事業概要、モニタリング結果、コスト、写真、技術指針等)がインターネット上で公開されております。言語の壁はありますが、これら情報の中には、今後の日本の河川再生の取組において貴重な知見・教訓も少なくなく、また日本の河川再生取組の積極的な情報公開のあり方を考える上でも参考になります。

JRRNでは、こうした貴重な情報を日本国内にできるだけ多く普及することを一つの目標としておりますが、一方でJRRNスタッフのみですべての情報を集約することには限界もあります。

そこで、海外の河川・流域再生事例や関連する技術類の情報源を整理し、会員皆様からご提供頂く情報を追加更新しながら、様々な目的に応じて海外の河川・流域再生に関わる情報を活用できる情報源としてJRRNホームページ上で管理していければと思います。

本一覧表の更なる充実化に向け、是非とも情報提供をよろしくお願いいたします。本情報源リストは、JRRN事務局の方で定期的に更新してまいります。

(JRRN事務局 和田彰)

海外の河川・流域再生に関わる事例及び技術指針等の情報源



作成者: 日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)

更新日: 2011年4月4日

No.	基本情報							情報源としての評価			
	タイトル	国	機関名	発行・更新頻度	ページ	言語	媒体	内容	事例情報	技術指針	写真の有無
【1】 欧州											
1-1	ECRR 出版物データベース	欧州	European Centre for River Restoration (ECRR)	不定期	-	英語	html	欧州の河川再生に関わる技術指針、論文、書籍等が表紙付きで豊富に掲載(pdf形式、ダウンロード可)されている。以下の9項目で構成されている。 1. General Guidelines 2. Restoration of geomorphological processes 3. River restoration for fish fauna 4. Flood risk and river restoration 5. Water quality 6. Urban rivers 7. River restoration and decision making processes 8. Monitoring 9. Basin scale restoration projects		○	有
1-2	ECRR 再生事業データベース	欧州	European Centre for River Restoration (ECRR)	不定期	-	英語	Excel	再生事業が表形式(エクセル、ダウンロード可)で整理されている。事業主体からコスト、関連サイトなどが記載。 また、以下のサイトがリンク先として整理されている。 NRRSS Database / EMWIS database / New Waterbase datasets available for Rivers, Lakes and Groundwater / AQUASTAT Database / MedWet Database / Projects from the workshop Water Framework Directive and Hydropower / Case studies / Database on Interreg III		○	無
1-3	ECRR国際会議データベース	欧州	European Centre for River Restoration (ECRR)	3年に一回	-	英語	html	ECRR国際会議の論文集が掲載されている。 現在、1996年、2000年、2004年、2008年の4回分について、pdf形式にてダウンロードが可能である。		○	有
1-4	Life Projects 検索サイト	欧州	Financial Instrument for the Environment of EU (LIFE)	不定期	-	英語	html	Lifeが財政支援したプロジェクトのDBであり、調べたい項目を入力して検索する。 背景、目的および結果の概要や、パートナー・予算等が記載。		○	無
1-5	EEA 出版物データベース	欧州	European Environment Agency (EEA)	不定期	-	英語	html	EEAが出版した環境全般に関する資料をpdf形式にてダウンロード可能である。 水環境、特に水質に關係する資料が豊富である。		○	△ 有

■ダウンロードはこちら→ <http://www.a-rr.net/jp/observe/docs/JRRNkaigaiSourcelist20110404.pdf>

会議・イベント案内（2011年5月以降）

（ARRN・JRRN 主催・共催の会議・イベント）

■2011年の「JRRN 河川環境ミニ講座」を企画中

2011年に開催する「JRRN 河川環境ミニ講座」を現在企画中です。是非聞いてみたいという講師や、関心のあるテーマがございましたら、JRRN 事務局までご意見をお寄せ下さい。（info@a-rr.net）

※過去の開催報告はこちらから→ <http://www.a-rr.net/jp/info/letter/eventreport/>

■2011年のARRN「第8回水辺・流域再生に関わる国際フォーラム」は秋頃に東京にて開催予定

本年度8回目を迎えるARRN国際フォーラムは、2011年10月～11月頃を目標に、4年ぶりに東京を会場に開催の予定です。プログラム概要が決まり次第、皆様にお知らせします。

※過去の開催報告はこちらから→ <http://www.a-rr.net/jp/info/letter/eventreport/2326.html>

（その他の河川再生・河川環境に関する主なイベント）

■応用生態工学会フィールドシンポジウム in 広島

○日時：2011年5月19日（木）～20日（金）

○会場：太田川-広島湾流域圏

○主催：応用生態工学会

<http://www.a-rr.net/jp/event/02/2683.html>

■第156回 河川文化を語る会『日本一きれいな錦川を守る活動について～自然は永久に錦川』

○日時：2011年5月28日（土） 14:30～16:30

○会場：岩国市役所・多目的ホール（山口県岩国市）

○主催：公益社団法人日本河川協会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2630.html>

■第158回 河川文化を語る会『今迫りくる大洪水の危機』

○日時：2011年7月11日（月） 18:00～20:00

○会場：厚生会館（全国土木建築健保）

○主催：公益社団法人日本河川協会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2690.html>

■2011年度河川技術に関するシンポジウム

○日時：2011年7月23日（土）～24日（日）

○会場：東京大学農学部弥生講堂

○主催：（社）土木学会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2649.html>

■2011年度川に学ぶ体験活動全国大会 in 鶴見川流域

○日時：2011年9月17日（土）～19日（月）

○会場：慶應義塾大学 日吉キャンパス等

○主催：川に学ぶ体験活動全国大会 in 鶴見川流域実行委員会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2574.html>

■皆様からのイベント情報提供をお待ちしています！

全国で河川再生に向けた様々な行事が開催されています。ローカル情報のPRや共有を目的に、皆様からの情報提供をお待ちしております。（JRRN事務局）

冊子・ビデオ等の紹介

■ リバーウォークの魅力と創造—川を活かした都市再生（2011.4 発刊）

・著者：吉川 勝秀（JRRN 会員）

・出版社：鹿島出版会

・発行年月：2011年4月

・価格：¥ 2,835 円（税込）

・ISBN：978-4306072886



本書は、都市と河川を結ぶ「リバーウォーク」に焦点をあて、世界の事例を多数紹介しながら、これからの河川と都市のあるべき関係について解説しています。

■ 写真で見る 自然環境再生（2011.1 発刊）

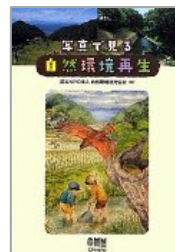
・編集：認定NPO法人自然環境復元協会（JRRN 会員）

・出版社：オーム社

・発行年月：2011年1月

・価格：¥ 2,835 円（税込）

・ISBN：978-4274209772



北海道から九州までの日本を代表する自然再生・復元の取組について、写真や図を豊富に用いながら解説されています。

会員募集中

■ JRRN の登録資格 (団体・個人)

JRRN への登録は、団体・個人を問わず**無料**です。
市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川環境の整備・改善に携わるすべての方々のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

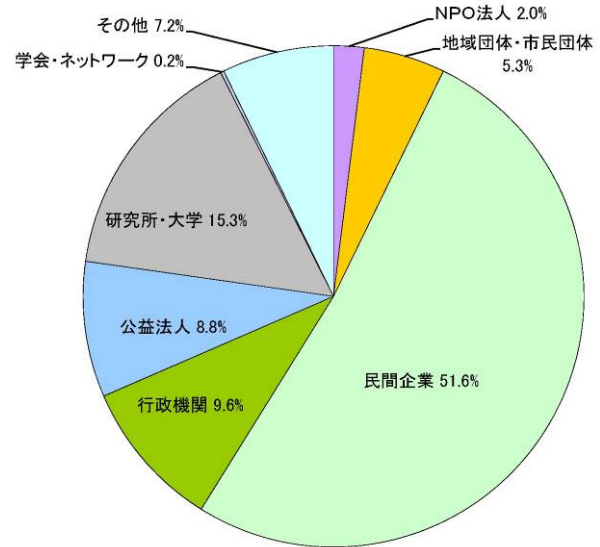
会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川環境に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週に1回～2回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/info/member.html>



2011年4月28日時点の個人会員構成
(個人会員数：489名、団体会員数：33団体)

JRRN 会員特典一覧表(団体会員・個人会員)

JRRNが提供するサービス		JRRN 団体会員	JRRN 個人会員	非会員 (一般の方)
1	ホームページへのアクセス及び各記事へのコメント入力 ^{※1}	◎	◎	◎
2	ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ^{※2}	◎	◎	◎
3	ニュースメール(週2回)の配信 ^{※3}	◎	◎	×
4	Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ^{※3}	◎	◎	×
5	JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ^{※4}	◎	◎	×
6	国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ^{※5}	◎	◎	×
7	ホームページ「最近の話題・ニュース」及びニュースメール「会員提供情報」欄で団体が関わる行事や出版、技術や製品等の案内の掲載 ^{※6}	◎	△ ^{※7}	×
8	ホームページ「会員登録」「人・組織のつながり」欄及び年次報告書内で団体名の掲載	◎	×	×
9	ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ^{※8}	◎	×	×
10	JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ^{※9}	◎	×	×

【発行・問合せ先】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局
 財団法人リバーフロント整備センター 内
 〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 新川中央ビル7階
 Tel: 03-6228-3862 Fax: 03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net URL: <http://www.a-rr.net/jp/>

※JRRN 事務局は、「アジア河川・流域再生ネットワーク構築と活用に関する共同研究」の一環として、(財)リバーフロント整備センターと(株)建設技術研究所が運営を担っています。